



札幌証券取引所IR個人投資家向け会社説明会

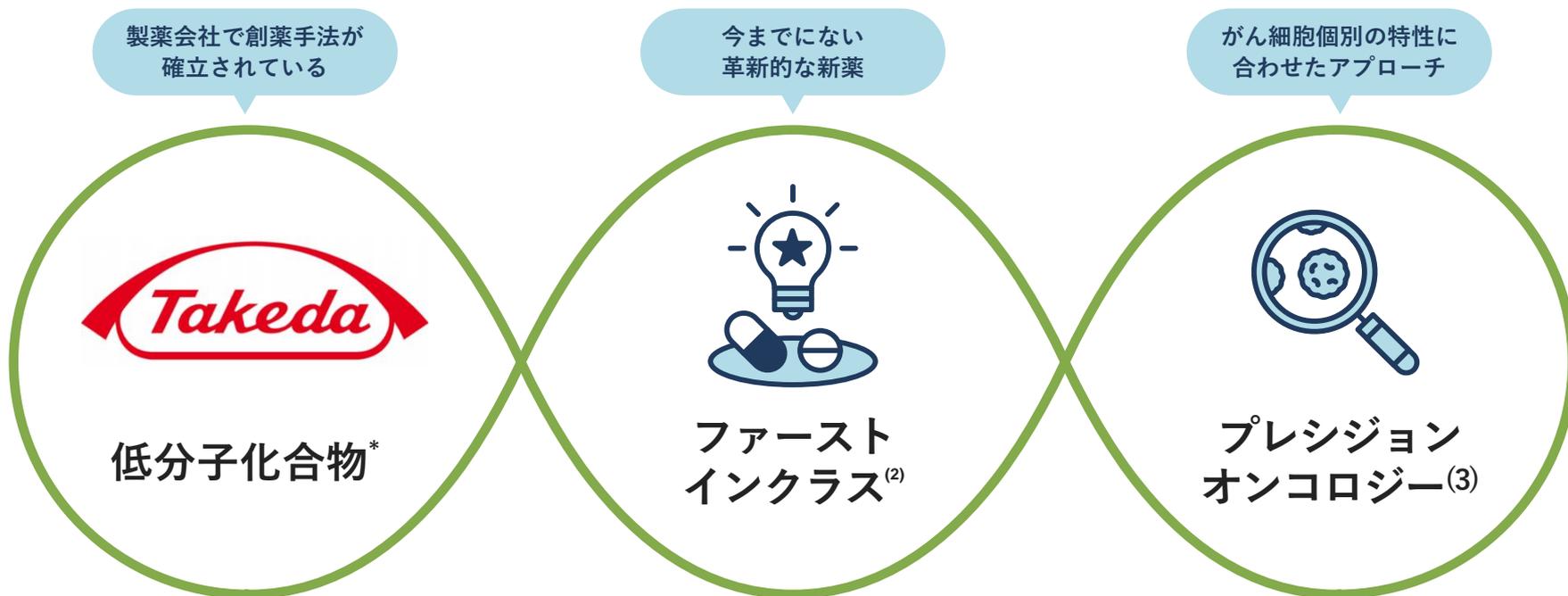
Chordia Therapeutics株式会社

上場市場：東京証券取引所グロース市場（証券コード 190A）

2024年10月11日

武田薬品工業からスピナウトしたがん創薬の専門家集団

- 武田薬品工業から4つのアセットの実施許諾、ノウハウ、ネットワークを受け継いだ高い研究開発能力
- 全く新しい働き（作用機序）⁽¹⁾を有するファーストインクラス⁽²⁾の低分子抗がん薬を開発



製薬手法が確立されている低分子化合物で
プレジジョンオンコロジーの新しいターゲットにチャレンジ

*：分子量が1,000以下を当社では低分子化合物と定義

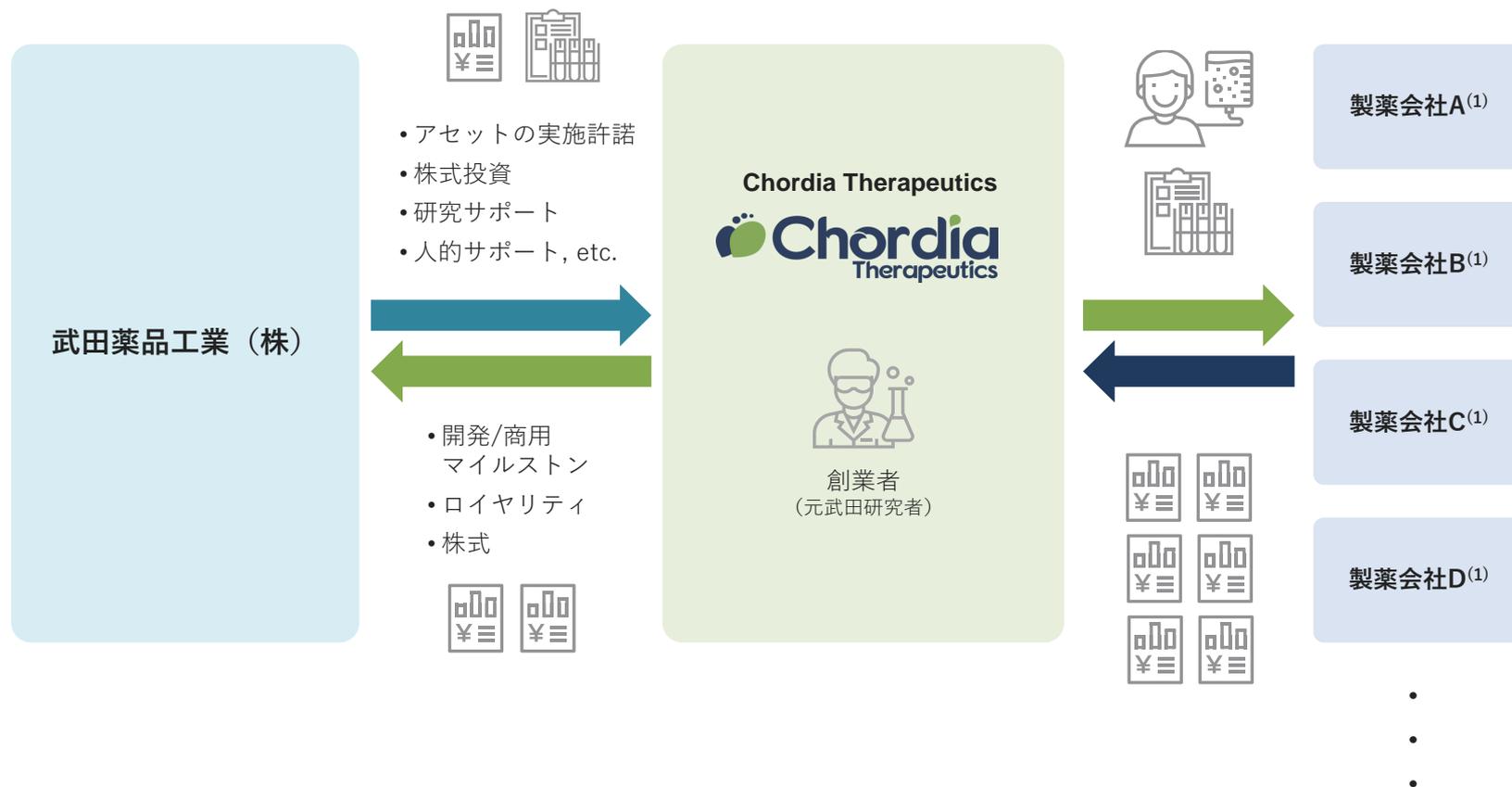
(1) 全く新しいとは、当該作用機序の薬がまだ商用化されていないことを指す

(2) ファーストインクラスが何を指すかについては65頁参照

(3) プレジジョンオンコロジーが何を指すかについては39頁参照

当社のビジネスモデルと武田薬品との関係

- Chordiaは2017年に武田薬品からスピナウトしたバイオベンチャー



(1)製薬会社の記載および当社との間の矢印は、当社のビジネスモデルには製薬会社に対してライセンスアウトをすることも含まれていることを示すものであって、現時点においてライセンス契約等が存在すること意味するものではありません

経営者 三宅洋の自己紹介



- 1970年 埼玉県草加市生まれ 54才
- 1989年 大阪大学薬学部入学
- 1993年 東京大学大学院薬学系研究科入学
- 1998年 武田薬品入社
 - 1998 – 2000 十三研究所
 - 2000 – 2003 鹿児島大学出向
 - 2003 – 2005 十三研究所
 - 2005 – 2006 加大サンフランシスコ校留学
 - 2006 – 2007 十三研究所、筑波研究所
 - 2007 – 2011 武田サンディエゴ
 - 2012 – 2017 湘南研究所
- 2017年 Chordia Therapeutics株式会社設立、
代表取締役就任、現在に至る

多様性と高い専門性を有する取締役

- 業務執行取締役はCEOのみとし、経験豊富で多様性に富んだ社外取締役によるモニタリング機能を強化したガバナンス体制を構築している



代表取締役/CEO：三宅 洋

- 2017年11月に共同創業者とともにChordia Therapeuticsを設立し、代表取締役社長・CEOに就任、現在に至る。Chordia入社前は武田薬品工業の癌創薬ユニットの日本サイトヘッドを務めていた。20年以上の創薬研究の経験を有し、6つのプログラムで臨床試験の開始に貢献した。
- 大阪大学薬学部卒業、東京大学大学院薬学系研究課博士課程修了、薬学博士



社外取締役監査等委員：石井 幸佑

(公認会計士/ラクオリア製薬社外取締役)

- 2021年6月に当社監査役に就任後、2022年11月の定時株主総会にて社外取締役監査等委員に就任、現在に至る。
- 新日本監査法人へ入所後、CFO派遣プログラムにより、iPS再生医療ベンチャーの株式会社メガカリオンに出向し2015年に転籍し同社執行役員として就任した。その後、2020年9月に株式会社バイオエイドを創業し、CFO支援、経営管理体制構築、ガバナンス体制支援を行うとともに、2021年3月にラクオリア創薬株式会社の社外取締役に就任している。



社外取締役：嶋内 明彦

- 2018年1月に当社監査役に就任後、2022年10月の臨時株主総会にて社外取締役に就任、現在に至る。
- 味の素株式会社入社後、American Hospital Supply (現Baxter)、富士レビオ株式会社、Quintiles Translational Japan (現IQVIA)にて合弁会社設立、米欧現地法人立上げ経営、事業再建等の要職を務めた後、株式会社エムズ・サイエンスの経営に従事。2016年に株式会社INDEE MEDICALを設立し、2019年には同社をエムスリーの子会社であるコスモテックへのM&Aを実現した。



社外取締役監査等委員：西方 ゆかり

- 2022年10月に当社監査役に就任後、2022年11月の定時株主総会にて社外取締役監査等委員に就任、現在に至る。
- Chordia入社前は、武田薬品工業のオンコロジー領域ユニット日本・アジアの代表を務めていた。30年以上にわたる製薬業界での経験を有し、研究戦略および開発戦略に加えて、米国法人のマネジメントおよび経営企画部における全社コントロールをおこなった経験を有している。



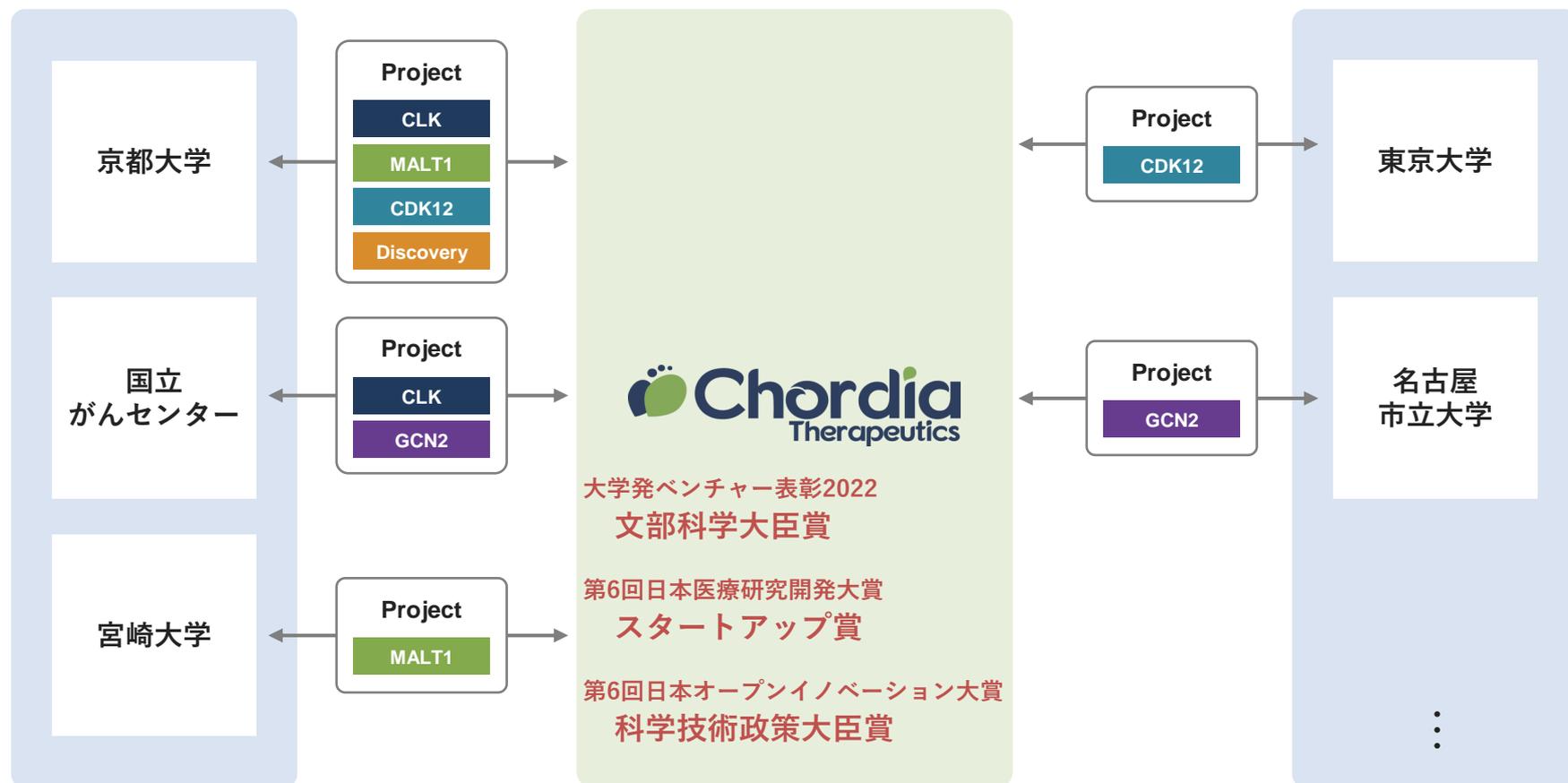
社外取締役監査等委員：橋本 阿友子

(弁護士：骨董通り法律事務所)

- 2021年6月に当社監査役に就任後、2022年11月の定時株主総会にて社外取締役監査等委員に就任、現在に至る。
- 2011年12月に弁護士登録後、2012年にはパーカー&マッケンジー法律事務所に入所。その後金子・中・橋本特許法律事務所を経て、2017年より骨董通り法律事務所へ所属。神戸大学大学院法学研究科非常勤講師、東京藝術大学 利益相反アドバイザーに従事している。

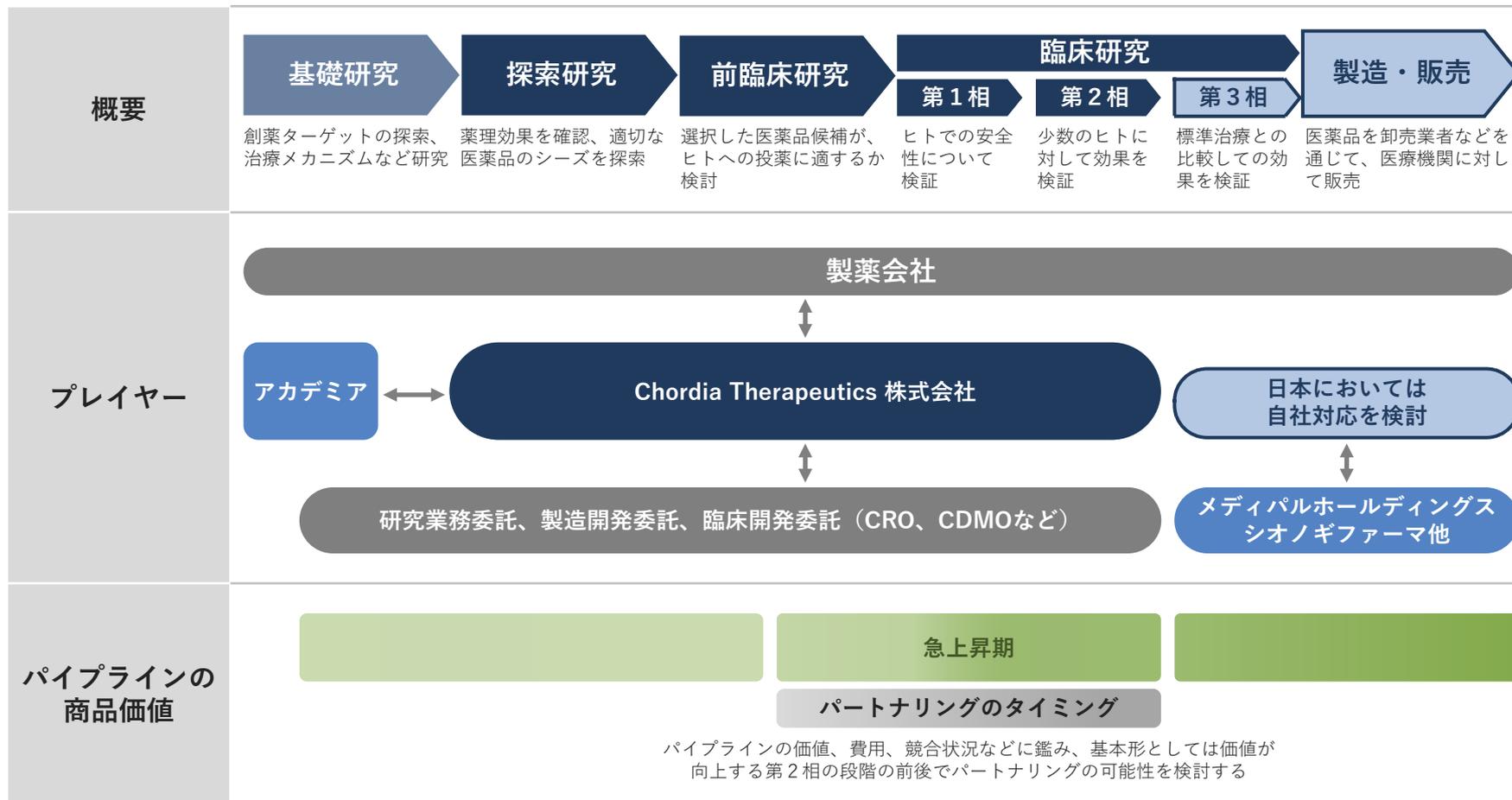
産学連携でパイプラインを創出して開発

- 複数の大学との産学連携を進め、内閣府や科学技術振興機構など幅広い行政団体からの評価を獲得
- MALT1阻害薬は、2015年に京都大学、宮崎大学とプログラム開始し、2020年には小野薬品工業とライセンス契約を締結



臨床POCを確立した高価値パイプラインを大手製薬に導出

- 探索研究から臨床研究までをコアビジネスとし、製造・販売については国内を自社、国外はライセンスアウトを想定
- 米国型バイオベンチャーのように、自社での上市を目指すことによって高い利益率を目指す



メディパルHDからのご支援

- 2022年に将来的なCTX-712の国内販売に向けて業務提携に関する基本合意書を締結
- 本年6月上場時に当社株式を親引けで引受



Press Release

2022年5月19日

報道関係者各位

Chordia Therapeutics 株式会社

株式会社メディパルホールディングスと業務提携に関する基本合意書締結のお知らせ

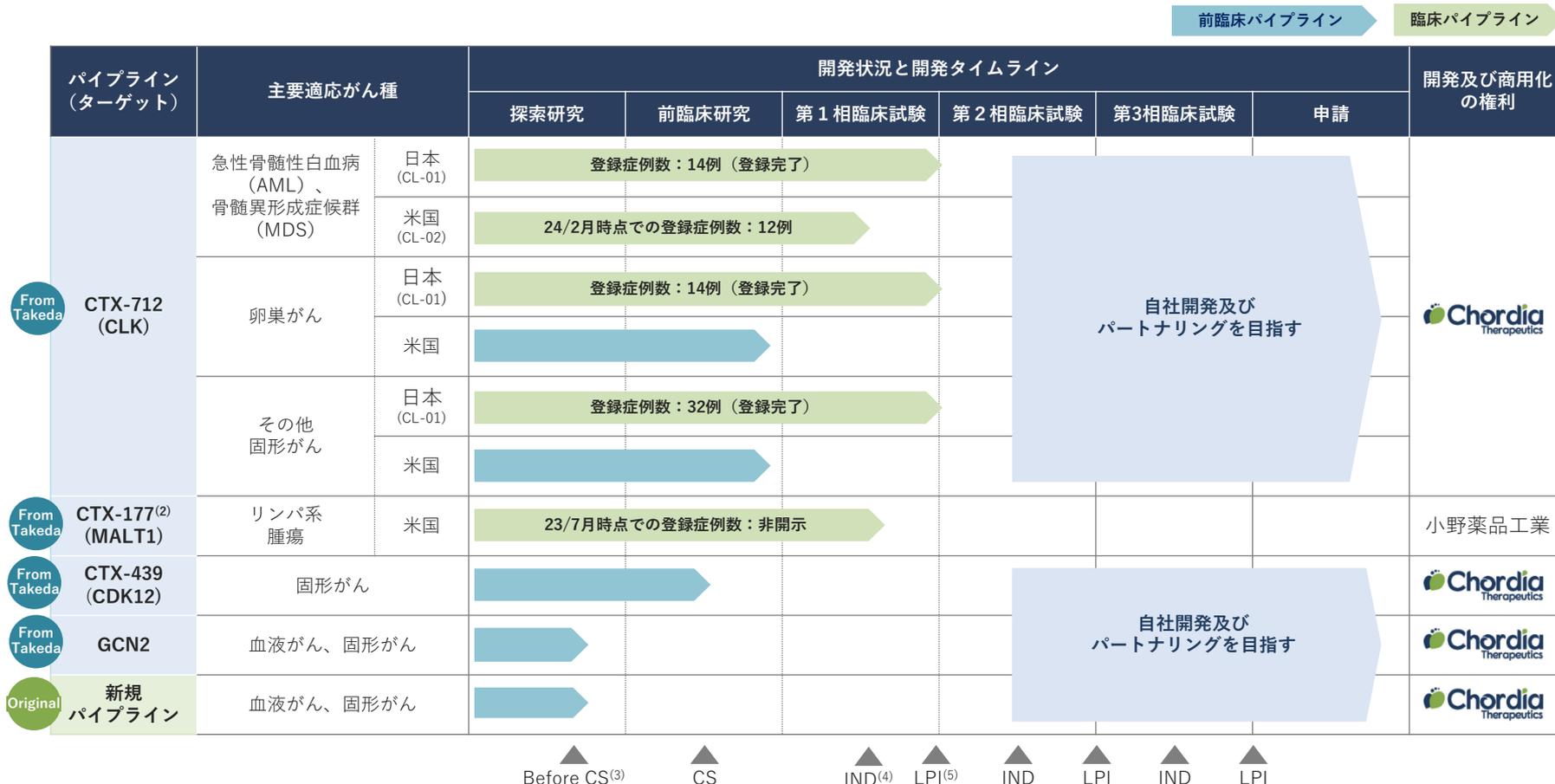
がん領域に特化した研究開発型バイオベンチャー企業である Chordia Therapeutics 株式会社（以下「当社」、代表取締役：三宅洋、所在地：神奈川県藤沢市）は、このたび株式会社メディパルホールディングス（以下「メディパル」）と業務提携に関する基本合意書を2022年5月13日締結したことをお知らせいたします。

指定する販売先（親引け先）	株式数	目的
武田薬品工業株式会社 （大阪府大阪市中央区道修町四丁目1番1号）	当社普通株式1,307,100株	当社の既存株主かつライセンス契約を締結している先であり、今後関係性を安定的に継続させていくため。
株式会社メディパルホールディングス （東京都中央区京橋三丁目1番1号）	当社普通株式1,307,100株	当社の既存株主である Medipal Innovation 投資事業有限責任組合を通じて当社の株式を所有しており、かつ業務提携に関する基本合意を締結している先であり、今後関係性を維持・発展させていくため。

5つのパイプライン、うち2つは臨床ステージ

- 当社は研究開発型のバイオテック企業であり、事業モデルとして、特に国外はライセンスアウトを軸にしている⁽¹⁾

– 2つの臨床アセットに加え1つのアセットでは前臨床試験を実施中



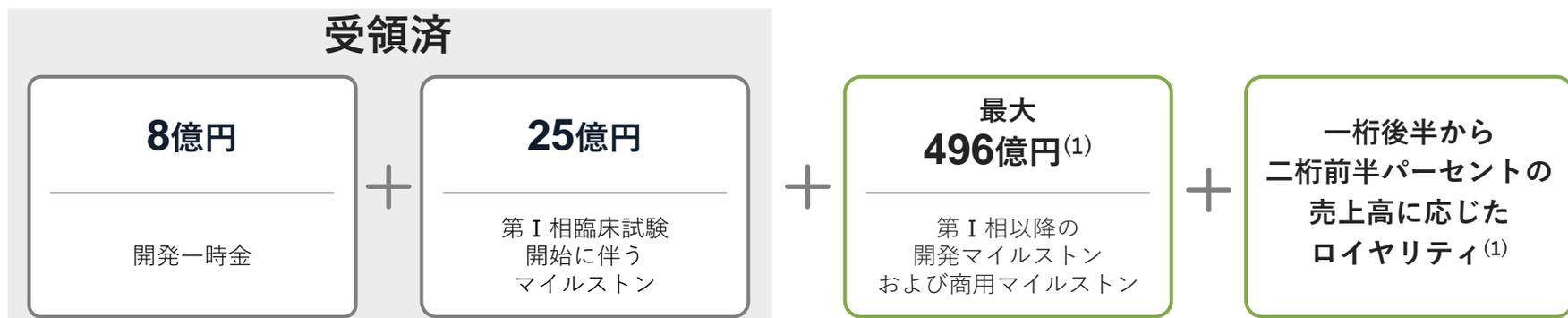
上記の情報には将来見通しに関する記載が含まれており、それらは様々な前提ならびに現在入手可能な情報に依拠し様々なリスクが顕在化しないと仮定して形成された当社の経営陣の見解および判断に基づいている。そのため、臨床試験または新薬の承認の進捗、時期または結果について、当社は表明または保証を行うことはできず、また、行わない。実際の結果は上記の将来見通しに関する記載から（潜在的には非常に大きく）異なることがある。

(1) 将来の国内・国外における製造販売に関する想定については、スライド16頁をご参照下さい、(2) CTX-712, CTX-439および GCN2, と異なり、CTX-177のターゲットである MALT1については、RNA制御ストレスを対象としていません
 (3) Candidate Selection (臨床候補化合物選定)、(4) Investigational New Drug (治験実施届)、(5) Last Patient In (被験者登録の終了)

オブジーボを開発した小野薬品に最大500億円超の条件で導出

- 2号パイプラインCTX-177は小野薬品へのライセンス契約上、潜在的に最大500億円超のマイルストーン（収入）が可能となる条件で評価された
- 現在、小野薬品がONO-7018の開発名で米国で第1相臨床試験中（ClinicalTrials.gov Identifier: NCT05515406）
- MALT 1 阻害薬CTX-177は、BTK阻害薬との併用効果が期待される⁽²⁾

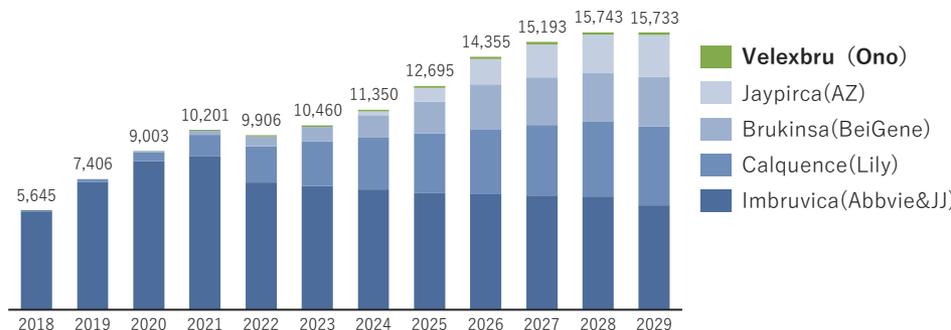
小野薬品とのライセンス契約の経済条件



ONO-7018(CTX-177)の開発進捗状況

- 2022年8月、米国において再発または難治性の非ホジキンリンパ腫、もしくは慢性リンパ性白血病の患者を対象に第 1 相臨床試験を開始
- 2024年6月、米国臨床腫瘍学会において『A phase I, first-in-human study of ONO-7018 in patients with relapsed/refractory non-Hodgkin lymphoma or chronic lymphocytic leukemia』を発表

BTK阻害薬の抗がん薬における市場規模⁽³⁾



(1) 小野薬品と当社との間で締結された契約に定められた当社が受領する権利を有するマイルストンの最大金額およびロイヤリティの割合。ロイヤリティを当社が受け取ることができる期間は契約に定められた期間に限定される。マイルストーンおよびロイヤリティを当社が受領するためには、契約に詳細が定められた条件を充足する必要がある。契約に詳細が定められた条件が充足されない場合には、当社はマイルストンの最大金額もしくは一切を、またはロイヤリティの一切を受領できない可能性がある。(2)2022 ASH Presentation abstract # 4000, (3) Clarivate社のCortellis Analysis Forecastより19-Apr-2024時点データより引用

当社はがんの特徴であるRNA制御ストレスの創薬に強みを持つ

- がんの特徴、弱点に対して作用する抗がん薬は高い治療効果を持ち、大きな売上となるケースが多い
- 当社が注力するRNA制御ストレスは近年新たに発見されたがんの特徴の一つであり、新規抗がん薬開発で注目されている

がん細胞の13の特徴とそれに対する抗がん薬の例とピークセールス⁽¹⁾



出所：公表情報をもとに当社作成 (Weinberg 2000, Elledge 2009, Meyerson 2012 and Evaluate Pharma, Eisai's disclosure material)

(1) がんの特徴のいずれかを標的とする抗がん剤の開発に成功した場合に対処可能な最大世界市場規模の推定値であり、当社の現在または将来のパイプラインの潜在的市場規模を意味するものではない。また各抗がん薬についての数値は、売上が最大額となった年における売上金額 Chordia Therapeutics Inc.

RNA制御ストレスはブルーオーシャン⁽¹⁾で大きな可能性

- がん細胞の特徴であるDNA損傷ストレスやタンパク質毒性ストレスに対する抗がん薬は上市済み
- RNA制御ストレスを標的とした治療薬は未だ上市品が存在せず⁽¹⁾、当社はこの研究領域に着目

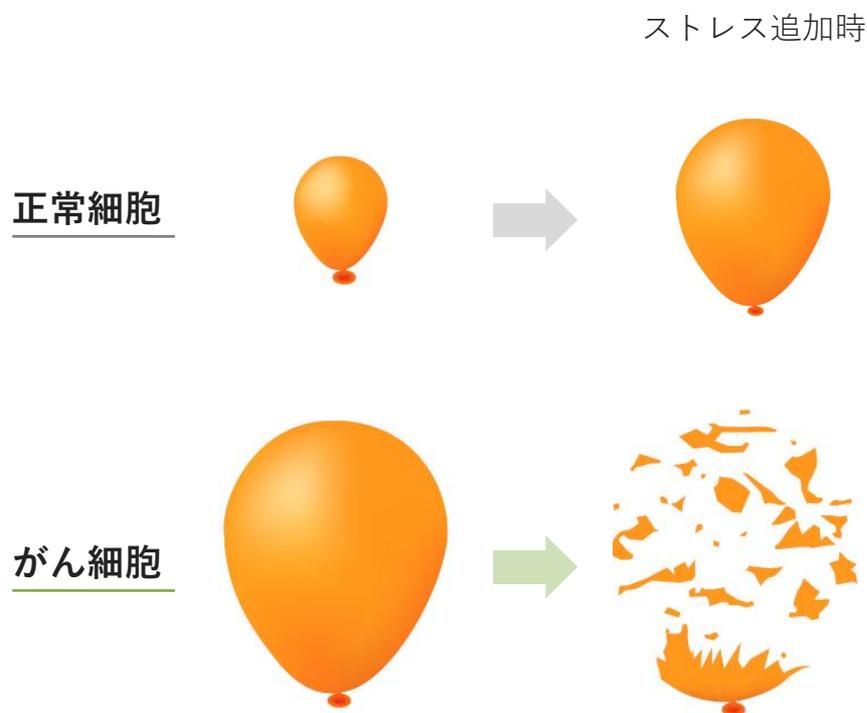
DNA、RNA及びタンパク質ストレスを標的とした上市済みの抗がん薬と当社のパイプライン

	DNA 損傷ストレス	RNA制御ストレス				タンパク質毒性ストレス	
	DNA複製	RNA転写	RNA スプライシング	RNA分解	RNA輸送	タンパク質輸送	タンパク質分解
上市製品 (標的分子)	Lynparza (PARP1/2)	-	-	-	-	XPOVIO (XPO1)	VELCADE (Proteasome)
Chordiaの パイプライン	-	 CDK12 (CTX-439)	 CLK (CTX-712)	 New	 GCN2	-	-

(1) 当社調べでは、標的分子としてRNA制御ストレスを対象とした標的を有する上市済み製品がないため、ブルーオーシャンとして捉えている
Chordia Therapeutics Inc.

Chordiaが手掛ける抗がん薬のコンセプト

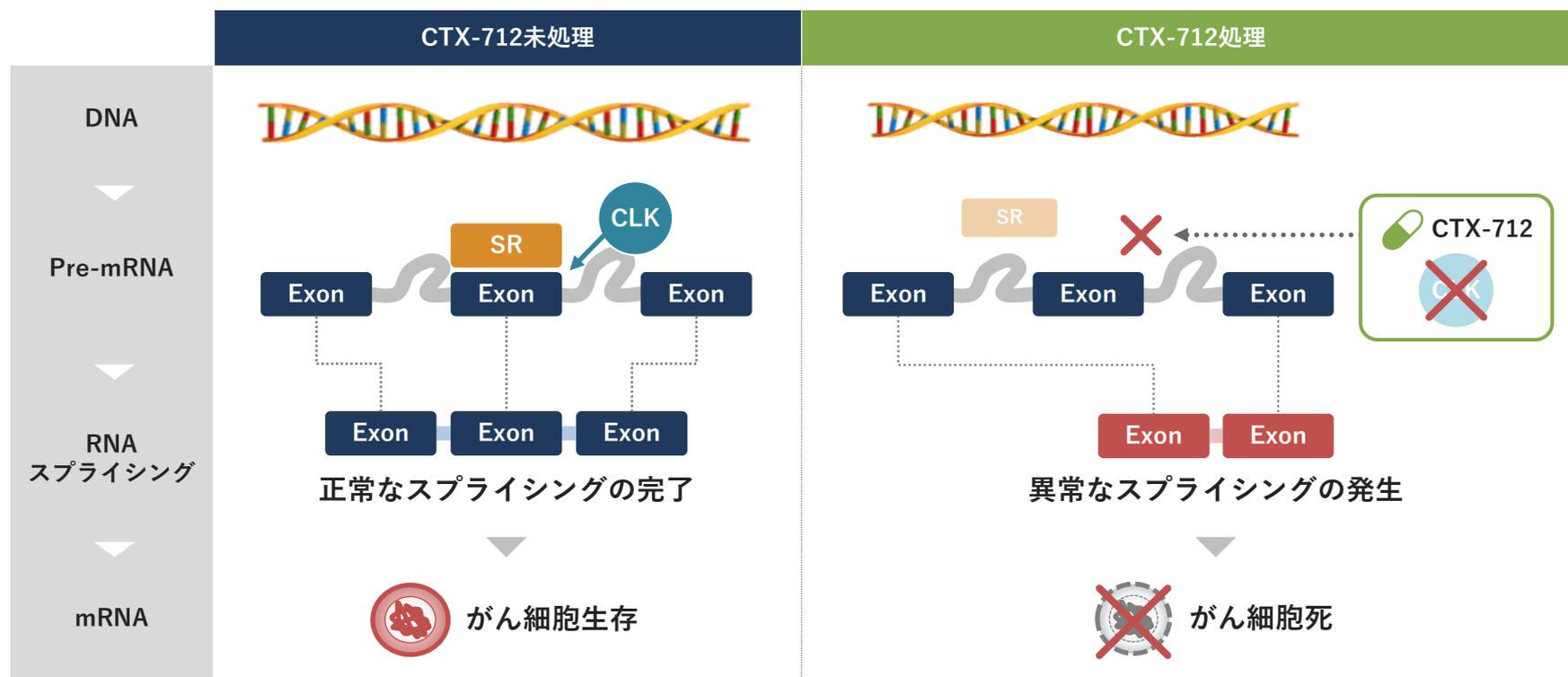
- がん細胞に比べてストレスがない正常細胞は、追加のストレスにある程度耐えうる（上図）
- 既に大きなストレスがかかっているがん細胞に追加でストレスを加えると、がん細胞は耐えることが出来ずに死滅するものと期待される（下図）⁽¹⁾



*イメージを示すためのみのものです。当社作成
(1) 出典：Cell. 2009 Mar 6;136(5):823-37

CTX-712はRNA制御ストレスを増大させてがん細胞を死滅させる

- mRNA生成過程において、不要な箇所を取り除く”スプライシング”が行われる
- CTX-712は異常なスプライシングを発生させることによりRNA制御ストレスを増大させがん細胞を死滅させる

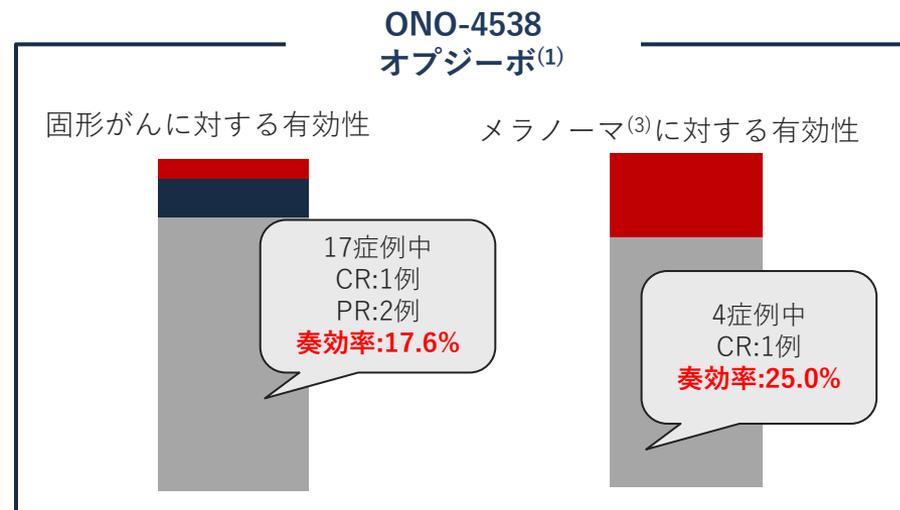
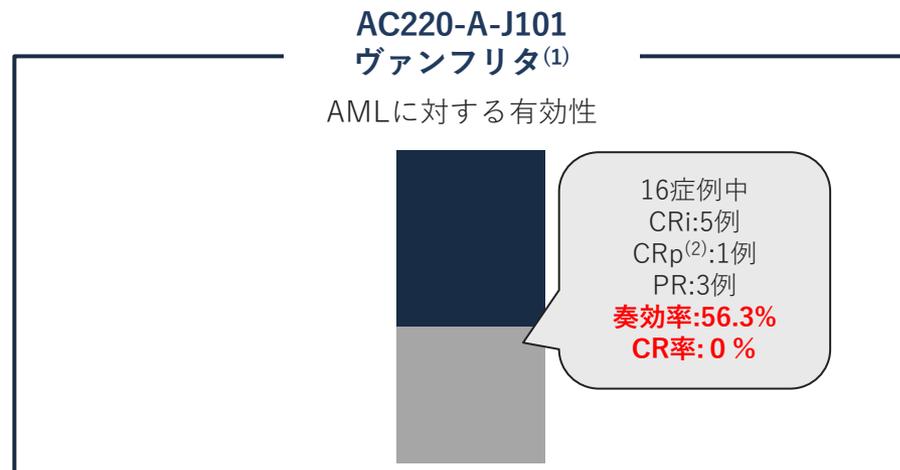
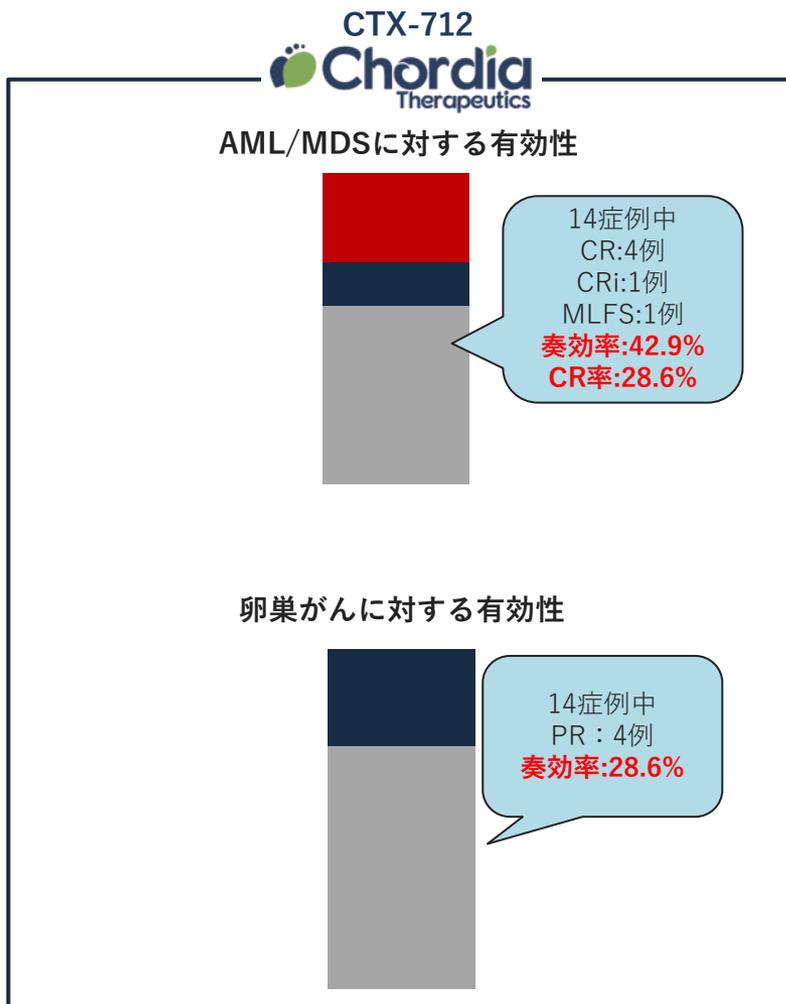


*イメージを示すためのみのものです。当社作成

CTX-712は第1相臨床試験で高い奏効率を示した

- CTX-712のAML/MDSと卵巣がんに対する第1相臨床試験段階の有効性は、既存承認薬の第1相臨床試験の成績と大きく劣らない水準

■ : CR ■ : CR以外の奏効 ■ : 奏効なし



(1) 出典：ヴァンフリタ、オブジーボのインタビューフォームを参照して、当社作成

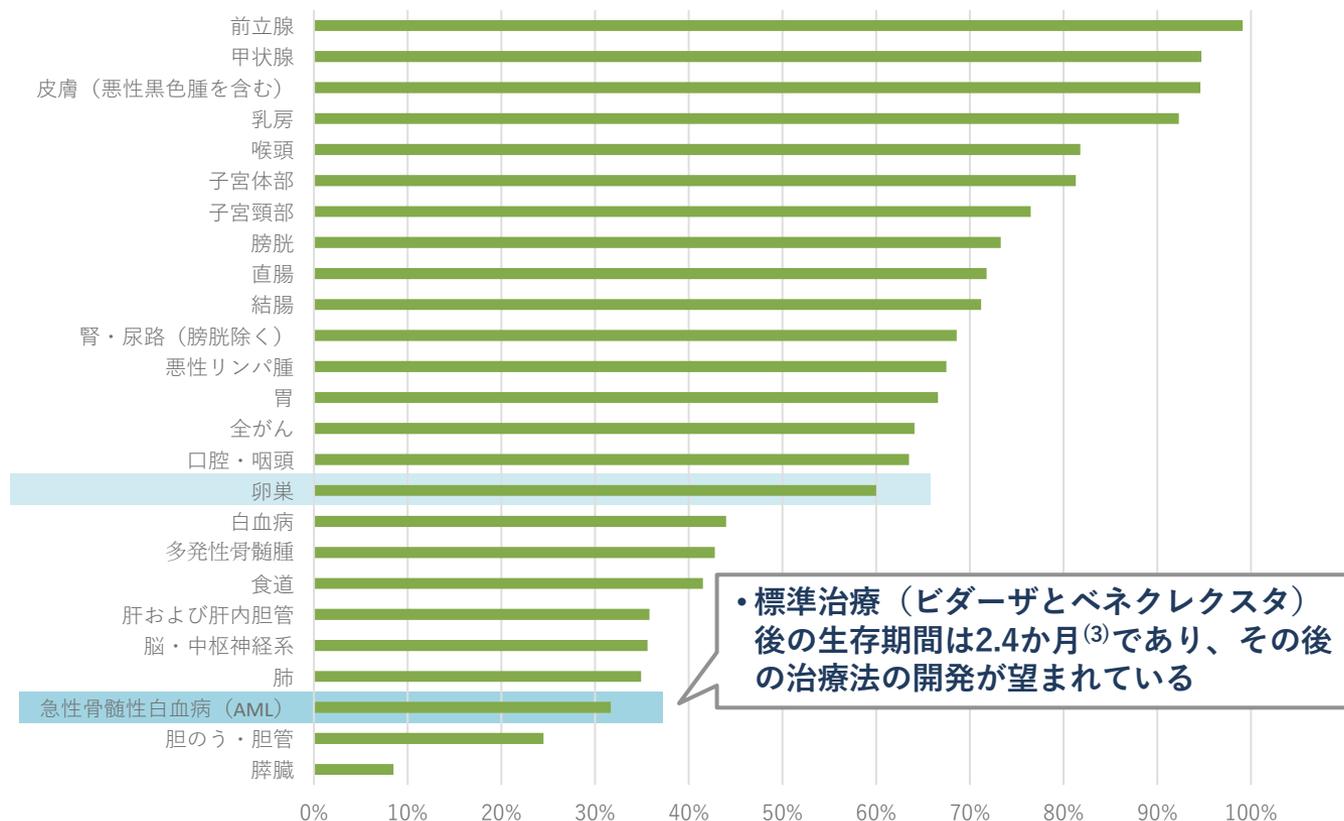
(2) CRp：血小板数が未回復だが、CRの条件を満たす状態

(3)メラノーマは、オブジーボにおいて最初に承認を取った疾患領域であって、オブジーボが当初第1相臨床試験を行った疾患領域のうち最も高い有効性が示された疾患領域である

予後不良のAMLや卵巣がんを先行させてCTX-712を開発中

- 急性骨髄性白血病（AML）や卵巣がんの5年生存率は低く、アンメットメディカルニーズは高い
- AMLと卵巣がんは免疫療法が承認されておらず、新たな治療法の開発が強く望まれている

5年生存率



(1) AML以外の5年相対生存率は、公益財団法人 がん研究振興財団 がんの統計2023より

(2) AMLの5年相対生存率は、National Cancer Institute Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) Program _Leukemia (2013-2019)より

(3) Abhishek Maitiらの報告 (Haematologica. 2021 Mar 1; 106(3): 894-898.)

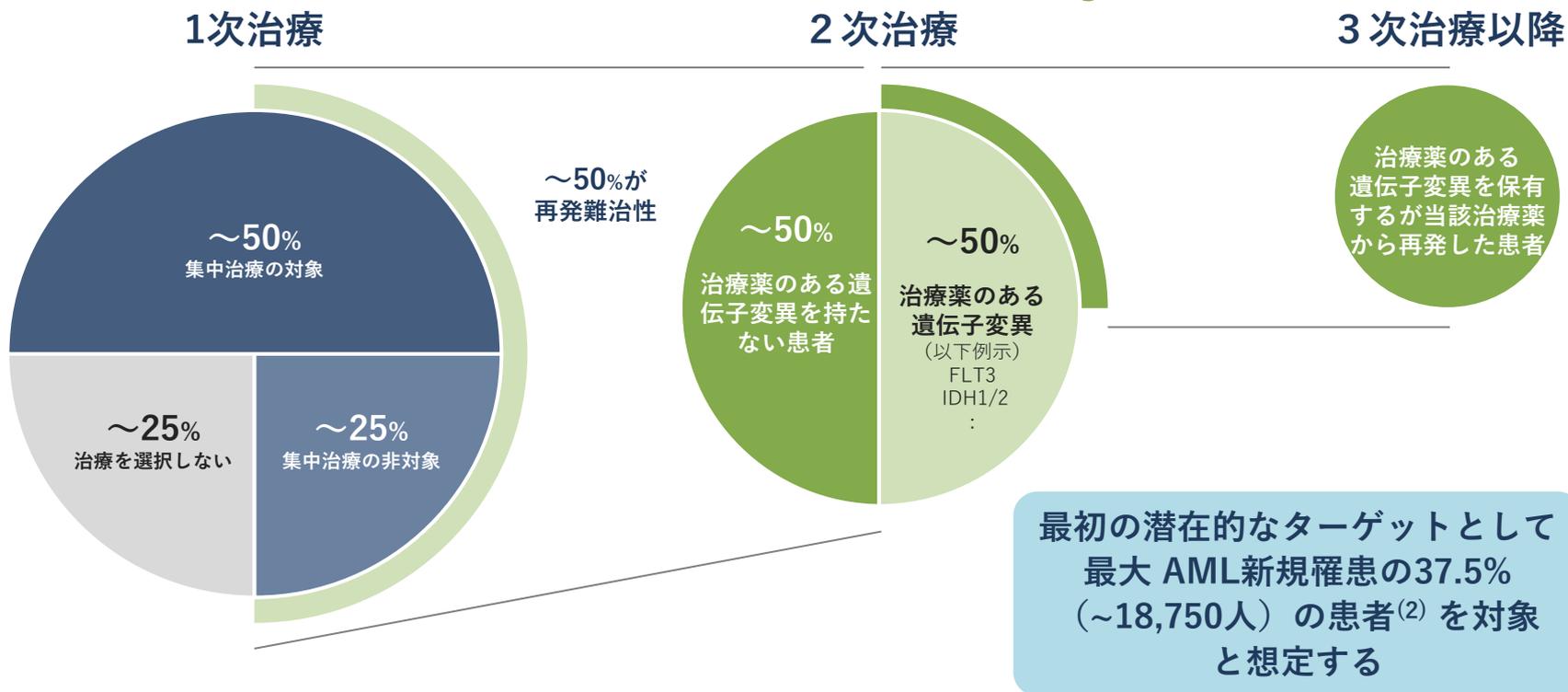
CTX-712は治療選択肢が限られるAMLの2次治療以降で開発中

- 有効な治療法のない日米欧の再発難治性のAML患者18,750人（2029年時点）が最初のターゲット

AML(急性骨髄性白血病),

~5万人 AMLの患者 (US, フランス, ドイツ, イタリア, スペイン, イギリス, 日本)⁽¹⁾

● : CTX-712の最初のターゲットと想定する患者層



(1) Global Data AML epidemiology forecast to 2029 (Global Data 2020)

(2) 2020年Agiost社のJP Morganでのプレゼンテーション、International journal molecular Science Acute Myeloid Leukemia Mutations Therapeutic Implications 3 June 2019、Global Data2020の資料より、当社は、一次治療（1st line therapy）に関わらず、AML患者のおおよそ50%までが二次治療（2nd line therapy）を受け、治療薬のある遺伝子変異（FLT3, IDH1, IDH2等）を持たない二次以降の治療（2nd line therapy-）の患者の100%及び治療薬のある遺伝子変異を持つ患者のおおよそ50%までがCTX-712の最初の潜在的なターゲットとして見積もっている

AML 2次治療以降でのSAMは2,000億円以上⁽¹⁾

- アンメットメディカルニーズの高い再発難治性のAML2次治療以降を最初の対象として想定

AML 2次治療以降を対象とするがん治療薬の市場規模の仮定上の前提に基づくシミュレーション⁽¹⁾

CTX-712治療対象の
AML患者数⁽²⁾



仮定上の薬価
/治療日数⁽³⁾



仮定上の
治療期間⁽⁴⁾



潜在的な市場規模
のイメージ



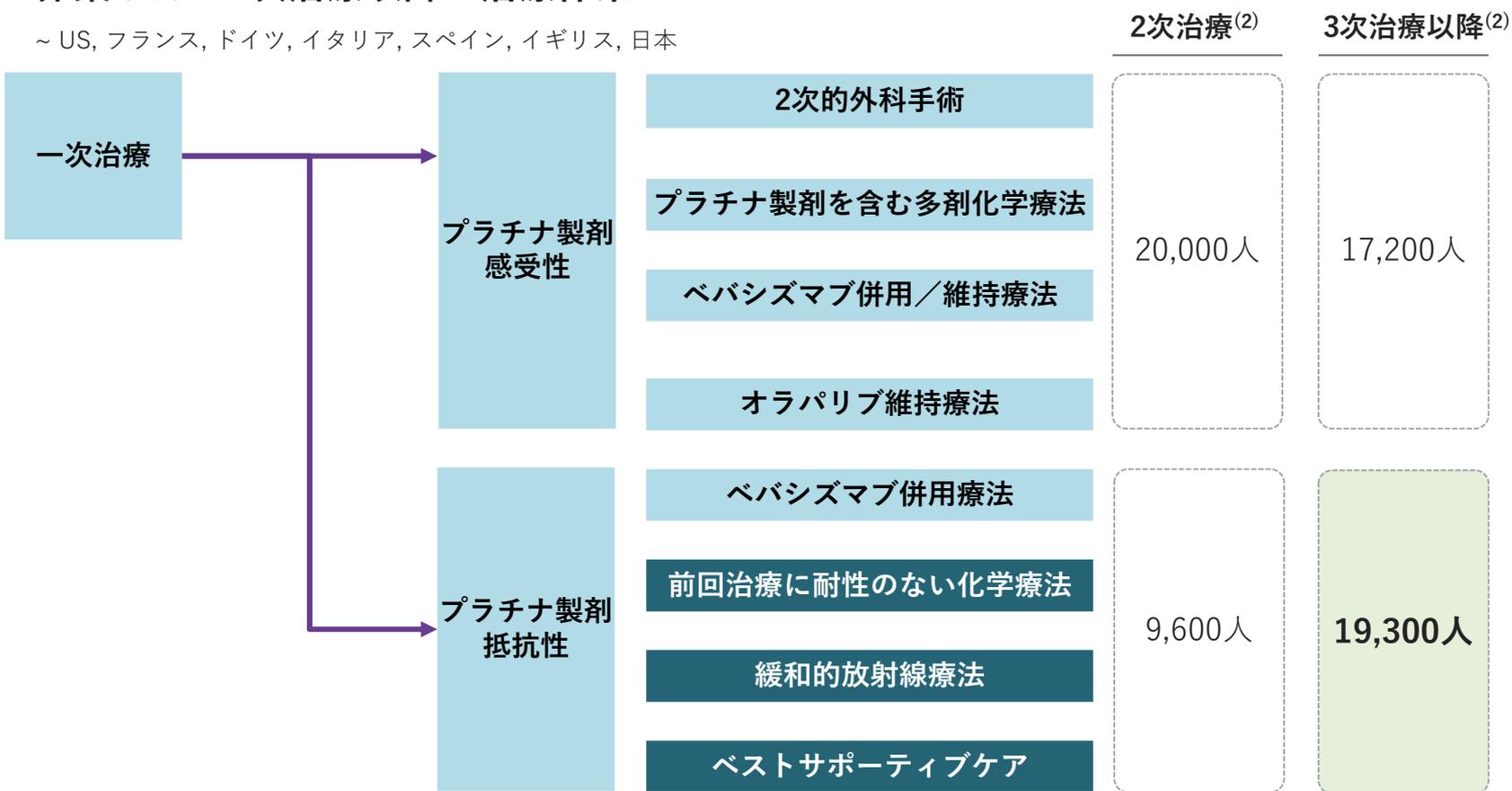
- (1) AML 2nd LineとしてのCTX-712の潜在的な市場規模(Serviceable Available Market)を推計するためのイメージであり、当社グループが2024年4月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示すものではない。また、本スライドに記載の数字は、外部の調査資料等を参照して当社が推計したものであり、その正確性にはかかる調査資料等や推計に固有の限界があるため、上記の推計と実際の市場規模とは大きく異なる可能性がある
- (2) P12資料を参照。ただし、患者数はGlobal Data 2020における2029年時点の推定患者数を採用
- (3) Global Data 2021より、Venclextaの日独米の平均薬価285,68\$／日、およびXospataの日独米の平均薬価653.47\$／日(1\$を140円で換算)
- (4) Xospataの国際共同第Ⅲ相試験における生存期間の中央値である9.3か月を参考に当社が推定

プラチナ製剤抵抗性の卵巣がんは治療選択肢が少ない疾患

- 卵巣がんについては、治療選択肢が限定的である再発難治性のプラチナ製剤抵抗性の患者がCTX-712の治療対象であり、現時点において想定される2028年時点の対象患者数は19,300人

卵巣がんの2次治療以降の治療体系(1)

～ US, フランス, ドイツ, イタリア, スペイン, イギリス, 日本



(1) 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン2020年版 | 公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 (jsgo.or.jp)より卵巣がんの2次治療以降を参照

(2) 2019年Global Dataで推定されている2028年時点の推計患者数を引用。ただし、プラチナ製剤抵抗性の3次治療以降については、3rd Line, 4th Line, 4th Line Switch Overの合計としている

プラチナ製剤抵抗性卵巣がんの3次治療以降のSAMは1,000億円以上⁽¹⁾

- 卵巣がんについて、アンメットメディカルニーズの高い再発難治性のプラチナ製剤抵抗性の卵巣がんをCTX-712の当初の治療対象として想定

プラチナ製剤抵抗性卵巣がんの3次治療以降を対象とするがん治療薬の市場規模の仮定上の前提に基づくシミュレーション⁽¹⁾

CTX-712治療対象のプラチナ抵抗性卵巣がんの患者数⁽²⁾



仮定上の薬価/治療日数⁽³⁾



仮定上の治療期間⁽⁴⁾



潜在的な市場規模のイメージ

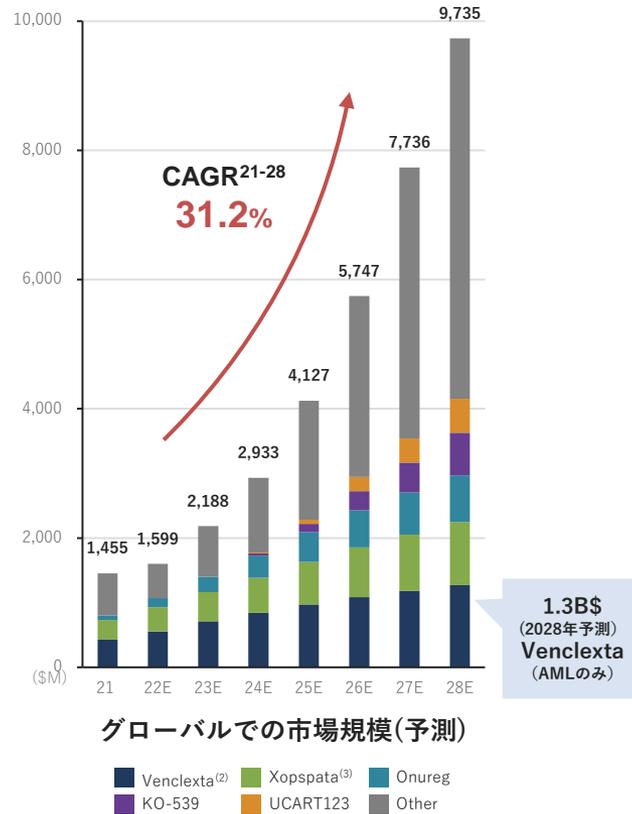


- (1) プラチナ製剤抵抗性卵巣がん治療薬としてのCTX-712の将来の潜在的な市場規模(Serviceable Available Market)を推計するためのイメージであり、当社グループが2024年4月現在で営む事業に係る客観的な市場規模を示すものではない。また、本スライドに記載の数字は、外部の調査資料等を参照して当社が推計したものであり、その正確性にはかかる調査資料等や推計に固有の限界があるため、上記の推計と実際の市場規模とは大きく異なる可能性がある
- (2) P14資料を参照。患者数はGlobal Data 2019における 3rd Line、4th Lineおよび 4th Line Switch over 2028年時点の推定患者数を採用
- (3) AMLでの承認を先に想定するため、AMLでの想定薬価を参照
- (4) 化学療法での3次治療および4次治療以降の平均治療期間より算出 (Global Data 2019)

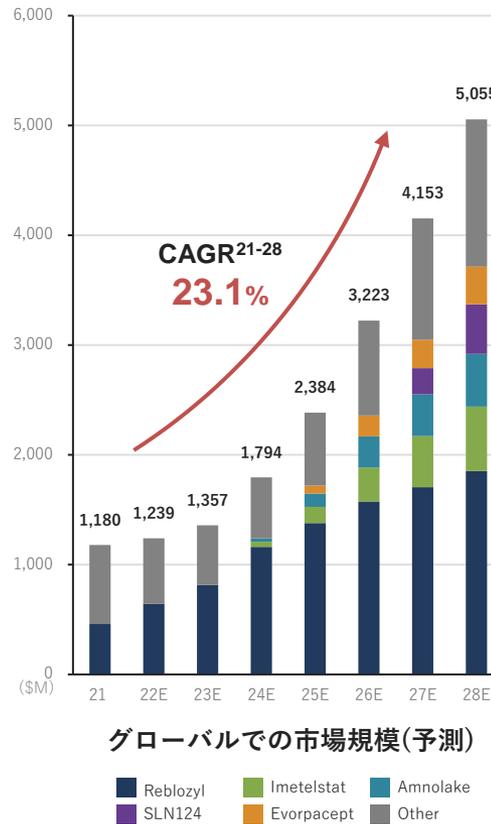
対象がん種の治療薬の市場可能性(1)

- 前臨床試験および第1相臨床試験で患者での奏功を示したがん種の市場規模は増加傾向にある。また、前臨床試験のみにおいては、CTX-712は、以下の3がん種以外においても抗腫瘍効果を示している

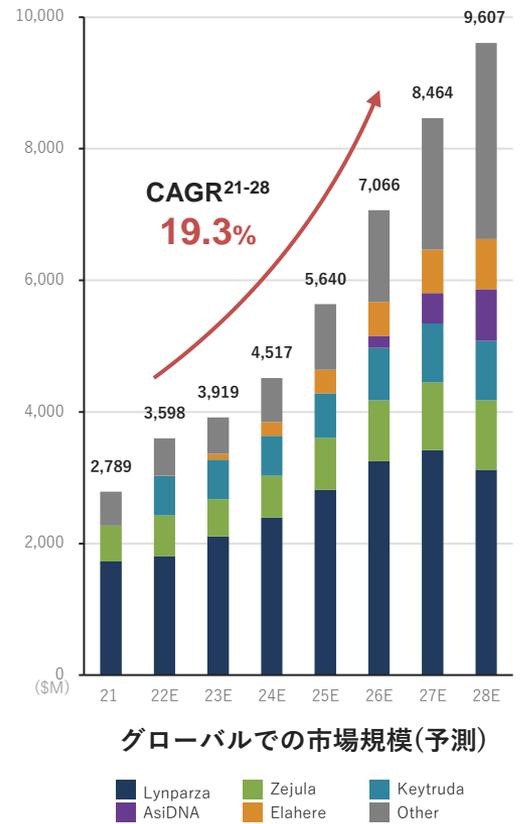
急性骨髄性白血病 (AML)



骨髄異形成症候群 (MDS)



卵巣がん



出典: Evaluate Pharma, (2023年1月30日時点)

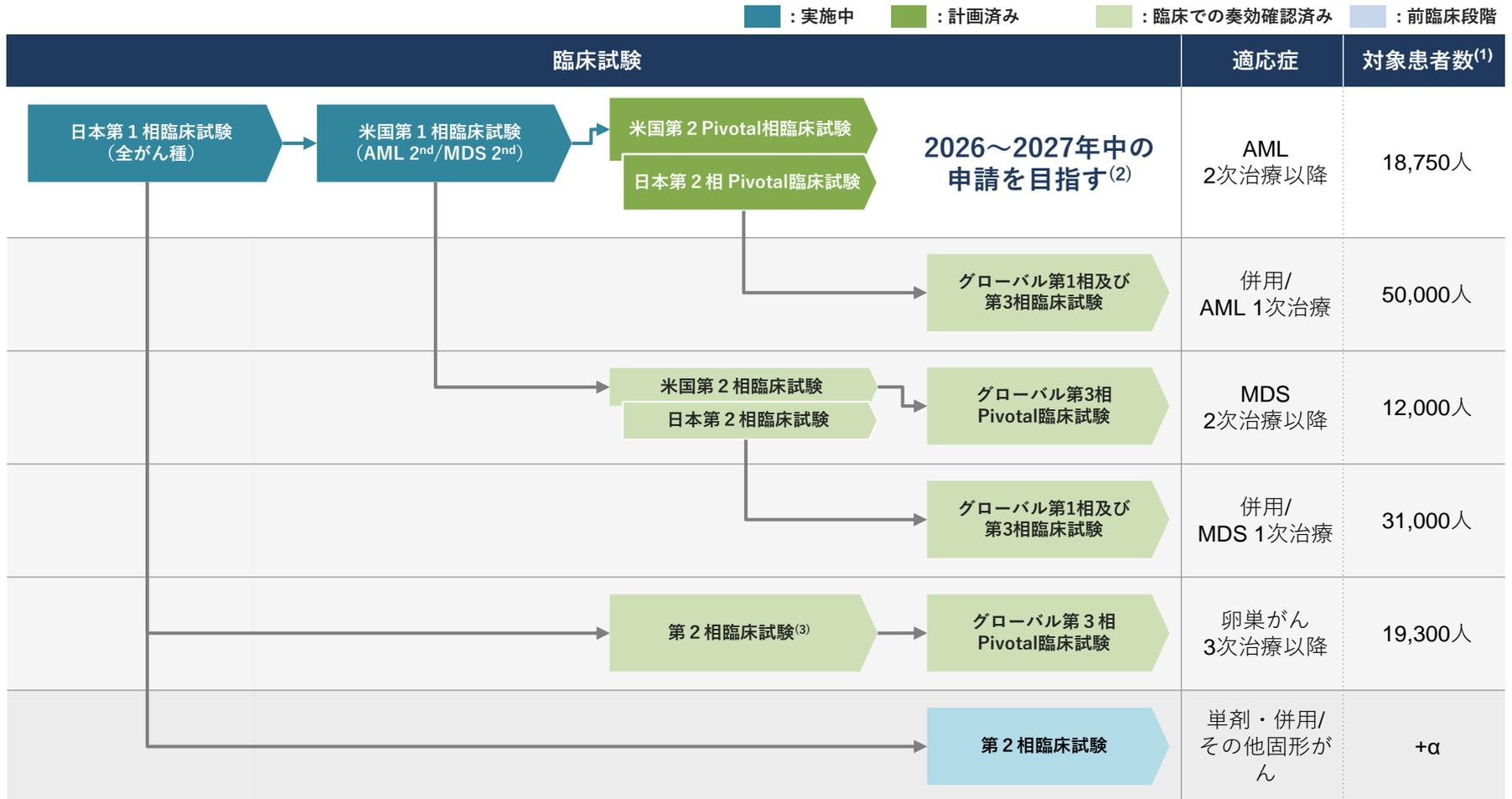
(1) AMLに対する有効性を含む様々な前提に基づいたCTX-712が潜在的に対象とする全世界での最大の市場規模の概算である。実際の市場規模はかかる概算と大幅に異なることがある

(2) Global Data 2020では、Venclextaの治療期間1日辺りに平均的に必要とされる薬の費用は米国では389.29\$と推定している

(3) Global Data 2020では、Xospataの治療期間1日辺りに平均的に必要とされる薬の費用は米国では748.13\$と推定している

適応拡大で製品価値の最大化を目指す

- 現時点では、第1相臨床試験での高い有効性が確認出来たAMLの2次治療以降の臨床開発に注力し、迅速承認を狙う
- AMLの1次治療や他がん種への適応拡大を順次進めることによって製品価値の最大化を目指す

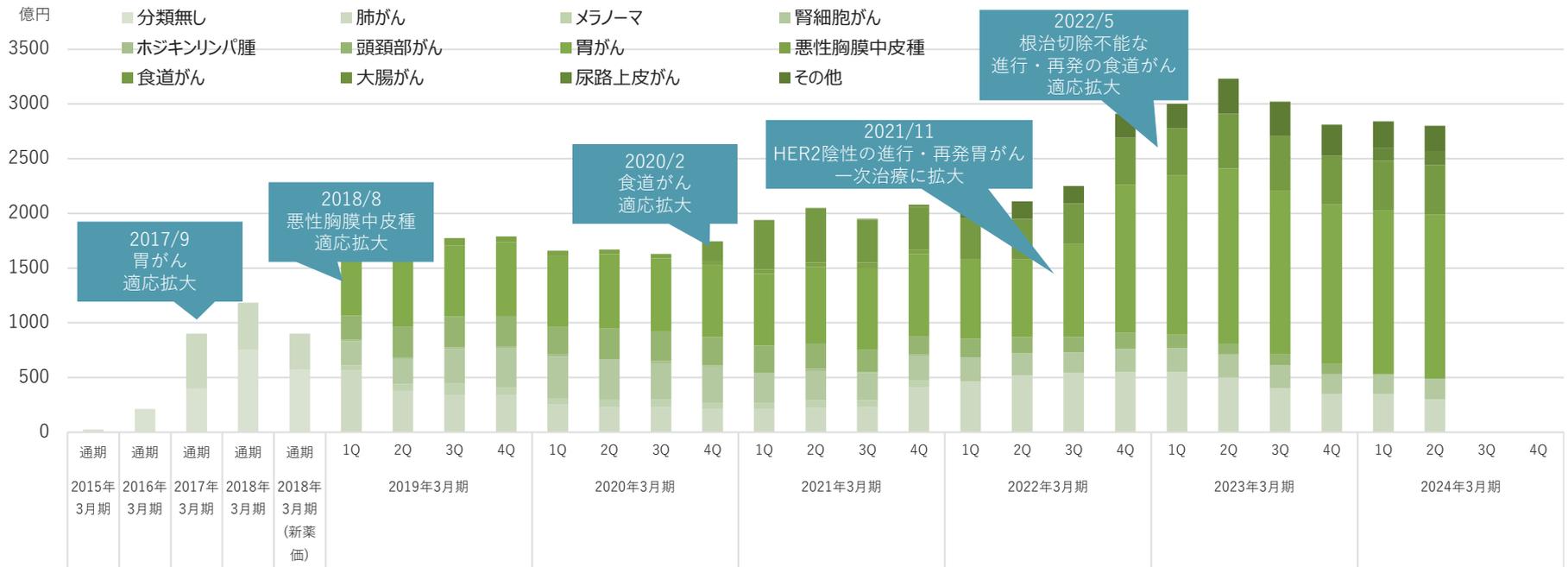


(1) 獲得しうる最大の市場規模としての患者数を当社がGlobal Data 2019および2020を基に試算した初期的推定(AML 2次治療以降及び1次治療2nd & 1st は頁12参照。MDS 2次治療以降は、2nd High Risk MDSの2nd Lineの合計、MDS1次治療は、High Risk MDSの1st Lineの合計(Global data 2020, 2029年時点、卵巣がん3次治療以降はPt抵抗性患者のうち3rd、4thおよび4th Switch Overの患者合計 (Global data 2019、2028年時点))であり、実際の患者数および実際にアプローチし得る患者数とは異なる可能性がある

(2) 承認申請に必要な臨床データが当社の想定どおりの時期・内容で収集されることを前提とした仮定の承認申請の時期を示すものであり、必要な臨床データが当社の想定どおりに収集できない場合や、臨床データが収集できたにもかかわらず何らかの理由により承認申請までに時間を要する場合には、2027年以降の承認申請となる可能性や、承認申請が行われないこととなる可能性がある。

(3) 当該部分は日本でのPivotal臨床試験になりうる可能性もあると当社では想定している

【参考】 オプジーボ⁽¹⁾の売上推移⁽²⁾



(1) オプジーボはがん細胞の特徴の一つである免疫ストレスに対する抗がん薬で適応拡大に成功

(2) 小野薬品工業決算説明資料をもとに当社作成。。免疫ストレスに対する抗がん剤の一例として他社の薬剤であるオプジーボの適応拡大および売上高推移を参考として示すものであり、当社のCTX-712を含む当社のパイプラインの将来の適応拡大の可能性または売上高推移について示唆するものではない。

マイルストーンイベントの達成状況と今後のイベント

2023年8月時点の目標をすべて達成

- Q4 2023 CTX-712 の日本国内臨床試験の患者登録の完了
- Q4 2023 CTX-712 の米国臨床試験の概要について公表
- Q2 2024 CTX-439/GCN2の前臨床試験結果について公表
- Q2 2024 CTX-712の日本国内臨床試験成績の公表

ベストケースでの今後の想定マイルストーン(注)

- 2H 2024 CTX-712 のOrphan drug designationの申請
- 2H 2024~1H 2025 CTX-712 の米国臨床試験の第1相中間成績公表
- 1H 2025 CTX-712 の日本／米国臨床試験の第2相試験開始
- 1H 2026 CTX-712 の日本／米国臨床試験の第2相データ取得
- 2H 2026 CTX-712の日本での販売承認申請

 : 実施中

2023		2024		2025		2026	
2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	
日本国内第1相臨床試験 AML/MDS、固形がん							
		米国第1/2相臨床試験の第1相パート AML/MDS					
				第2相パートは日米で実施予定 (注)			
						販売承認申請 (注)	
卵巣がんの第2相試験は計画中							

(注) 臨床試験が当社の想定どおりに進行することを前提とした仮定の記載であり、必要な臨床データが当社の想定どおりに収集できない場合や、臨床データが収集できたにもかかわらず何らかの理由により次の臨床試験の実施や承認申請が実施されない、又は実施までに時間を要する場合には、記載された時期と異なる時期に実施される、または全く実施されない可能性がある

抗がん薬を開発する類似ステージの企業例

(US\$ in millions)



市場価値:	\$5,399.3	\$1,905.7	\$1,569.9	\$691.9
現預金:	(\$413.3)	(\$373.8)	(\$452.6)	(\$263.5)
負債額:	\$0.0	\$1.9	\$17.4	\$0.3
企業価値:	\$4,986.1	\$1,533.7	\$1,134.8	\$428.8
臨床試験のフェーズ:	Phase 2	NDA Submitted	Phase 2	Phase 1a
対象疾患:	ROS1 NSCLC	R/R KMT2Ar (AML)	NPM-1 mutant AML	CML
リード対象疾患の想定患者数	~40k	~5-6.5k	~6k	~2-18k

本スライドは、抗がん薬を開発する企業のうち当社のパイプラインと類似の臨床試験のステージのパイプラインを有する企業を挙げたものであり、これらの企業が当社の企業価値評価に関して類似する又は参考となることを示すものではありません

出典： SEC filings, Company websites, S&P Capital IQ as of 02/19/2024.

Note: NPM-1 = Nucleophosmin 1, CML = Chronic myelogenous leukemia, R/R = Relapsed / refractory, AML = Acute myeloid leukemia.

1. Assuming Chordia has a cash balance of \$22.5 million and zero debt in June 2024. Adjusted TEV based on net debt of Chordia to derive equity value.

2. Based on proposal submitted to NeuroMetrix on 8 February 2024.

新しい抗がん薬で患者さんに新たな治療機会を届ける

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」の
これまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

免責事項

- 本資料は、当社の企業情報等のご案内のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券の取得勧誘又は売付け勧誘等を構成するものではありません。
- 本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としていますが、その真実性、正確性又は完全性について、当社は何ら表明又は保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、何人も、他の目的で公開又は利用することはできません。
- 本資料には、将来の業績に関する記述（「信じる」、「予期する」、「計画する」、「戦略をもつ」、「期待する」、「予想する」、「予測する」又は「可能性がある」というような表現及び将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みますが、これらに限定されるものではありません）が含まれております。これらの将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに一定の前提（仮定）の下でなされた当社の経営陣の判断に基づいて記載したものであり、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来情報に明示又は黙示されたものとは大幅に異なる場合があります。したがって、これらの将来に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- なお、本資料に記載された情報は本資料の日付（又はそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、それらの情報を変更又は訂正する一切の義務を負いません。
- 本資料は部外秘資料であり、当社の企業情報等のご案内のみを目的として提供しています。本資料の複製は禁じられており、いかなる方法によっても他者に転送又は再配布してはなりません。本資料を提供するにあたり、当社は、追加情報へのアクセス手段、本資料の情報の更新、本資料に記載されている情報が不正確であることが明らかとなった場合の修正につき、一切責任を負いません。
- 本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。

